

令和6年度北海道大学新渡戸賞授与式を挙行

地域中核・特色ある研究大学強化促進事業 (J-PEAKS) キックオフシンポジウムを開催
ビジネスコンテストで全学教育科目「キャリアデザイン～自分の未来を自分で考えよう～」の学部1年生チームが入賞



全学ニュース

- 1 令和6年度「北大・日立協働教育研究支援プログラム」意見交換会を開催
- 2 令和6年度北海道大学レーン記念賞授与式を举行
- 2 令和6年度北海道大学宮澤記念賞授与式を举行
- 3 令和6年度北海道大学新渡戸賞授与式を举行
- 4 2024年度キャリア支援・就職担当教職員情報交換会を開催
- 5 キャリアセンター主催「コンサルタントの思考法」講座を実施
- 6 キャリアセンター主催 ビジネスゲーム対策講座を開催
- 7 キャリアセンター主催「業界研究ガイダンス マスコミ・エンタメ編」を開催～北海道テレビ放送社員が登壇
- 8 地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）キックオフシンポジウムを開催
- 9 北海道大学創基150周年記念募金（北大フロンティア基金）
- 12 ビジネスコンテストで全学教育科目「キャリアデザイン～自分の未来を自分で考えよう～」の学部1年生チームが入賞
- 13 衛生管理者連絡会を開催
- 14 アントレプレナーシップ教育の出張講義を道内各地の学校で展開
- 15 「ふくしまイノベ未来講座」の一環として高校生への講義を実施
- 16 産学・地域協働推進機構の椎名希美特任准教授が沖縄でのスタートアップカンファレンス「KOZAROCKS 2024」に登壇
- 17 メルボルン大学先住民担当理事一行の再訪
- 18 GSDC（GLOBAL SUSTAINABLE DEVELOPMENT CONGRESS）2024に横田 篤理事・副学長が登壇
- 19 HSI科目「北大フィールドサマースクール」を開講
- 20 第3回北大・地球研連携シンポジウムを開催
- 21 「北大病院PHC presents～おいしく食べて予防医療！MIND食とは～」を開催
- 22 国際連合訓練調査研究所（ユニタール）広島事務所長による講演会を開催
- 23 「留萌管内高等学校・北海道大学SDGs・ゼロカーボンプロジェクト2024」プレワークショップを開催
- 24 令和6年度第1回サステナビリティ推進員会議を開催
- 25 上士幌町×北大まらごと交流祭を開催



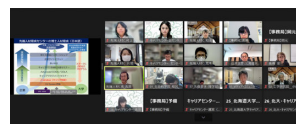
キャリアセンター主催「コンサルタントの思考法」講座を実施



「ふくしまイノベ未来講座」の一環として高校生への講義を実施



令和6年度「北大・日立協働教育研究支援プログラム」意見交換会を開催



2024年度キャリア支援・就職担当教職員情報交換会を開催

部局ニュース

- 26 会計専門職大学院が公認会計士制度説明会を開催
- 27 令和6年度理学院優秀研究奨励賞授賞式を举行
- 28 令和6年度医理工学院博士後期課程中間発表会を開催
- 29 北海道大学納骨堂慰霊式を举行
- 30 薬学部が「第25回生涯教育特別講座夏季講演会」を開催
- 31 農学部が第40回あぐり大学「農家のお仕事からみえる世界 農業は楽しい！おく深い！」を開催
- 32 2024年度北海道大学公開講座「外国語の学びについて考える（2）」を開催
- 33 低温科学研究所が中谷宇吉郎雪の科学館との連携協定に基づき講演会を実施
- 34 スラブ・ユーラシア研究センター2024年度夏期国際シンポジウム「新世界の垣根？20世紀夜明けのロシア境界地域」を開催
- 35 スラブ・ユーラシア研究センターの長縄宣博教授が大同生命地域研究奨励賞を受賞
- 36 第5回北の森林サイエンスCAFEを開催
- 37 北極域研究センターと紋別市が連携協定を締結
- 38 学内の相談関係者の連携強化のための「学生相談フォーラム」を開催
- 39 パネル企画展示「北方古地図展（第一期）」を開催中

監事退任にあたって 40

表敬訪問 41

人事 42

- 42 部局長等（再任）紹介
- 43 新任教授紹介

計報

- 44 名誉教授 小中 重弘 氏



メルボルン大学先住民担当理事一行の再訪



第3回北大・地球研連携シンポジウムを開催

■全学ニュース

令和6年度「北大・日立協働教育研究支援プログラム」意見交換会を開催

学務企画課大学院教育改革推進室は7月1日（月）・2日（火）、株式会社日立製作所研究開発グループの研究員（以下、日立研究員）14名を本学に招き、令和6年度「北大・日立協働教育研究支援プログラム」意見交換会を開催しました。

「北大・日立協働教育研究支援プログラム」は本学と日立製作所が協定を締結して、社会課題解決に貢献できる高度な技術の研究開発に取り組む人材を育成するために、優秀な学生の博士課程進学を促し、研究に専念できる環境を整える給付型奨学金のプログラムです。これまで毎年1度、日立製作所の中央研究所研究開発グループ国分寺サイトにて意見交換会を実施してきましたが、日立研究員と本学の支援学生との交流をより一層深めるため、今回初めて日立研究員を本学に招き、意見交換会を開催しました。

1日目は、交流会「from LAB to LIFE～研究×社会実装～」を開催しました。当日は本プログラムにより現在支援を受けている学生に加え、来年度以降の内定者、プログラムの支援を受け修了したOB・OG、本プログラムに興

味を持つ修士課程学生を含めた16名が参加しました。

交流会は山本文彦理事・副学長の挨拶から始まり、日立北大ラボの中村宝弘ラボ長代行・主任研究員から「日立北大ラボの研究紹介」を、中央研究所基礎研究センタの三輪俊晴センタ長から「日立製作所研究開発概要」について説明が行われました。

後半はグループに分かれて、自己紹介・研究紹介を行い、用意されたトピックについて学生と日立研究員の活発な意見交換が行われました。開催後のアンケートでは「アカデミアと企業研究員の考え方やキャリア構築の違いなど、色々と聞くことができた」「企業研究員の方と交流することによって、研究員から見ると自分の研究はこう見えるんだ、という新たな発見があった」等、参加学生から感想が寄せられました。

2日目は日立研究員9名が、本学施設を訪問しました。まず公共政策大学院を訪問し、山崎幹根公共政策学連携研究部長と、北海道が抱える地域課題について意見交換を行いました。次に、北海道ワイン教育研究センターを訪問

し、曾根輝雄センター長から、センターで行う教育と研究がどのように地域活性に貢献しているか説明を受け、意見を交わしました。最後にスマート農業教育研究センターを訪問し、本プログラムの支援を受け博士後期課程を修了した、山崎欽友博士研究員による無人トラクターの実演を見学しました。

2日間を通して日立研究員からは、「学生の皆さんの個々の研究に対する社会貢献への意識、及び自分の意志を持って研究に着手されている様子を見て大変刺激を受けた」「他大学にない北大独自の取り組みに関して詳細を知る機会を得た」などの感想があり、イベントは盛況のうちに終了しました。今回、意見交換及び施設見学にご協力いただいた、山崎研究部長、曾根センター長、山崎博士研究員に深く感謝申し上げます。

「北大・日立協働教育研究支援プログラム」意見交換会は、来年度も継続して行う予定です。

（学務部学務企画課大学院教育改革推進室）



1日目の集合写真

令和6年度北海道大学レーン記念賞授与式を挙

6月21日（金）、高等教育推進機構において、令和6年度北海道大学レーン記念賞授与式を挙

行了。レーン記念賞は1・2年次の英語の成績が特に優秀な学生を表彰する制度で、昭和40年から「レーン記念奨学金」として始まり、平成9年からは「レーン記念賞」と名を改め、今回を含め430名の学生に授与されています。

授与式は、受賞者10名が出席し、高橋 彩理事・副学長、外国語教育センターから奥 聡教授、そして平田公明学務部長の列席のもと執り行いました。

最初に、奥教授からレーン記念賞の歴史と、本賞に名をいただいているハロルド・M・レーン（Harold M.Lane）先生の功績についての説明がありました。

次いで、高橋理事・副学長から受賞者へ賞状、及び記念メダルが授与され、「ハロルド・M・レーン先生のよ

うに、皆さんも周りの人から敬愛されるよう、また世界にはばたく人間となるよう、身につけた英語力により一層磨きをかけ、国際性豊かな人間として周囲から親しまれる社会人を目指してください」との激励の言葉が贈られました。

（学務部学生支援課）



受賞者記念撮影

受賞者

文学部	坂 本 華 奈
文学部	大 西 晃
文学部	倉 田 愛 子 Nana
文学部	増 田 陽乃里
文学部	本 田 真 子
教育学部	伊 藤 愛沙子
教育学部	山 田 璃 奈
法学部	鈴 木 怜
法学部	堀 江 東 子
農学部	當 山 賢 ショーン



授与式の様子

令和6年度北海道大学宮澤記念賞授与式を挙

行了。6月26日（水）、高等教育推進機構において、令和6年度北海道大学宮澤記念賞授与式を挙

行了。宮澤記念賞は、1年次に履修した外国語科目のうち、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語及び韓国語の成績が特に優秀な学生を表彰する制度で、今回が10回目となります。

授与式は、受賞者10名が出席し、高橋 彩理事・副学長、濱井祐三子外国

語教育センター長、そして平田公明学務部長の列席のもと執り行い、高橋理事・副学長から受賞者へ賞状が授与され、宮澤・レーン事件や宮澤弘幸氏が国際的な活動に熱心な学生であったことについてのお話と共に、「本賞の主旨を理解し、今後、益々活躍することを期待しています」との激励の言葉が贈られました。

（学務部学生支援課）



受賞者記念撮影



授与式の様子

受賞者

文学部	鎌 上 圭
文学部	小 出 涼 子
文学部	岡 垣 文 香
文学部	佐 山 恵 梧
文学部	嵯 城 裕 基
文学部	杉 林 駿 汰
法学部	樽 井 瑞 佳
経済学部	小野川 雄 大
薬学部	吉 田 有 李
工学部	北 野 智 広

令和6年度北海道大学新渡戸賞授与式を挙行

7月11日（木）、高等教育推進機構において、令和6年度北海道大学新渡戸賞授与式を挙行了しました。

新渡戸賞は優秀な学部生の育成を目的として平成17年度に設けられた制度で、1年次における学業成績が特に優秀で、かつ人格に優れ、他の学生の模範となる2年次生に対して、奨励金が給付されます。

授与式は、受賞者13名のうち12名が出席し、高橋 彩理事・副学長、平田

公明学務部長の列席のもと執り行い、高橋理事・副学長から賞状が授与され、新渡戸稲造博士の業績についてのお話と共に「今回の受賞を契機に、皆さんには自らの教養を深め、学問に精励し、これからの大学生活をより一層有意義なものにすると共に、世界に羽ばたく人間へと成長していただきたい」との激励の言葉が贈られました。

（学務部学生支援課）

受賞者

文学部	鎌 上 圭
教育学部	佐々木 朝 花
法学部	樽 井 瑞 佳
経済学部	今 泉 花
理学部	上 澤 杏 佳
医学部（医）	棟 方 瑠 南
医学部（保健）	原 田 佳 苗
歯学部	佐 野 華
薬学部	吉 田 有 李
工学部	岩 本 周 也
農学部	諸 田 小百合
獣医学部	高 橋 和 琴
水産学部	西 山 遥



受賞者記念撮影



授与式の様子

2024年度キャリア支援・就職担当教職員情報交換会を開催

6月6日（木）、キャリアセンターと先端人材育成センターの共催で、各部局のキャリア支援・就職担当教職員との情報交換会を開催しました。

本学では両センターと各部局の就職担当の教職員との連携のもと、学生へのキャリア支援を行っています。本学が掲げる「学部から博士まで一貫したキャリア教育の強化」の実現に向け、大学運営や各部局及び両センターが行う進路・就職支援における課題について、両者が協働で取り組む体制の強化のため、部局のキャリア支援・就職担当の教職員と両センターの教職員が直接意見や情報を交換する場として、昨年度から実施しています。

今年度は、新たな取り組みとして、

意見交換や情報交換に十分な時間を確保するため、現在の就職環境や両センターの支援内容などを解説した動画を事前に配信し、参加者にあらかじめ視聴していただくようにしました。

当日は、高等教育推進機構長・大学院教育推進機構長の山本文彦理事・副学長、キャリア支援担当の高橋 彩理事・副学長からの挨拶の後、亀野 淳キャリアセンター長と吉原拓也先端人材育成センター長から、それぞれのセンターの取り組みについて説明があり、続いて行われた、参加者と両センター教職員との情報交換の場では、大学が行う支援内容に関する質問や、今後企画してほしい取り組みについての要望など、活発な意見交換・情報交換

が行われました。

終了後のアンケートでは、「他部局で抱えている課題や現状を知ることができた」「両センターの担当者の顔を見ることができて、今度相談しやすくなった」など、各部局の教職員間で横の繋がりができたことに満足する意見が多く寄せられました。

なお、参加者からの両センターへの質問に対する回答はデスクネッツで公開しています。

今後も両センターから学生のキャリア支援のための情報を発信していきますので、ご協力をお願いいたします。

（キャリアセンター・先端人材育成センター）



キャリアセンター・先端人材育成センターの取り組みを両センター長から説明



意見・情報交換の様子



先端人材育成センターの配信会場の様子

キャリアセンター主催「コンサルタントの思考法」講座を実施

6月21日（金）、クラーク会館にて、キャリアセンター主催インターンシップブレ研修特別企画として「コンサルタントの思考法」講座を実施しました。

昨年度、株式会社シグマクスへ本学の学生をインターンシップに受け入れていただいたご縁から、同社のインターンシップ責任者かつ現役コンサルタントでもある、インダストリーシェルパディレクターの鈴木悠也氏を講師に招き、本講座を実施しました。

第1部では、業界を問わず社会人に求められるビジネスマインドについて解説いただき、第2部では、ロジカル

シンキングの観点からコンサルタントに求められる思考法をワーク中心の実践形式で学ぶことのできる内容で、ワークを通じてコンサルタントに求められる課題を正確に捉えるところから、解決に向けた提案までを説明していただきました。

参加した学生からは「コンサルタントという仕事について、『課題解決を行う』というざっくりとしたイメージしか持っていなかったが、今回のワークによって、どういうプロセスで深掘りしていくのか、アイデア再構築型の解決を学ぶことができ、イメージが明

確になってきた」「コンサル会社と聞くと、会社にアドバイスをする会社という大まかなイメージしかなかったが、自分の想像以上に論理的に考えてクライアントに還元する、そして、考えてあげるだけでなく、一緒にリスクを持って取り組むという、まさにその会社の頭脳となってあげるということに気づかされた」などの感想がありました。

（キャリアセンター）

タイトル：インターンシップブレ研修 特別企画「コンサルタントの思考法」

日 時：2024年6月21日（金）18：15～20：15

会 場：クラーク会館

講 師：株式会社シグマクス インダストリーシェルパディレクター 鈴木悠也氏

企画・主催・当日運営：キャリアセンター



講師の鈴木氏



鈴木氏の説明を真剣に聞く学生たち

キャリアセンター主催 ビジネスゲーム対策講座を開催

6月22日（土）、クラーク会館にて、インターンシッププレ研修として、「～他己分析で自分の強みを新発見～ビジネスゲーム対策講座」を開催しました。

昨年から開催している講座となっており、今年度が2回目となります。

当日は31名の学生が参加し、学部1年生から修士1年生と学年も多岐にわたる中で、6グループに分かれて開催しました。

ビジネスゲームでは、グループに分かれた学生が架空企業のニーズを読み解き、フライングカーの開発・設計やシステム搭載、営業までのロールプレイングを行いました。

重量や走行性といった、安全性の基

準を満たさなければ営業活動を開始できないなどクリアする工程も多く、企業ニーズを掴む分析力やフライングカーの開発を行う発想力やデザイン力、営業活動を行う際のコミュニケーション力など、様々な能力が求められる中、学生たちはグループメンバーと協力して、優勝を目指しワークに取り組んでいました。

ゲーム終了後は、ゲーム中の様子から見えた個々人の強みを一緒にグループワークを行った学生同士、及び参加企業人事担当者からフィードバックをもらい、他己分析から分かる自分の強みについて考え、それぞれ自己分析を行いました。

当日は6社の企業・団体にご協力を

いただき、学生へのフィードバック後は、グループ毎に参加企業の活躍人材についての説明を行うなどの座談会や、軽食をとりながらの懇親会を行うなど、約4時間半のプログラムとなりました。参加学生からは「他者から評価をもらうことで自分の強みを知ることができた」とともに、自分の課題も知ることができた」「開発、システム構築、営業（toB,toC）について一通りゲームを通して考えることができ、チームで協同して色々な人の立場からフィードバックをもらう機会を楽しく経験できた」など、多くの気づきが得られたとのコメントがありました。

（キャリアセンター）

タイトル：～他己分析で自分の強みを新発見～ビジネスゲーム対策講座

日時：2024年6月22日（土）13：30～18：30

会場：クラーク会館（すべて対面で実施）

対象：学年を問わず

主催：キャリアセンター

協力・運営：株式会社ジェイ・ブロード、株式会社リアライブ

協力企業：株式会社イトーキ、株式会社エラン、株式会社オービック、クオリサイトテクノロジーズ株式会社、株式会社半導体エネルギー研究所、株式会社ラウンドワン



会場の様子



協力してフライングカーの完成を目指す



完成したフライングカーのデザイン性に投票をする企業担当者



営業活動を行う学生

キャリアセンター主催「業界研究ガイダンス マスコミ・エンタメ編」を開催～北海道テレビ放送社員が登壇

7月16日（火）、クラーク会館にて、キャリアセンター主催「業界研究ガイダンス～マスコミ・エンタメ編～」を開催しました。

第1部では北海道テレビ放送株式会社総務局総務人事部の宮崎のぞみ氏より、マスコミ・エンタメ業界について、現状と今後の展望など、業界全体の理解を深めるお話をしていただきました。

第2部はパネルディスカッション形式で、キャリアセンターの吉田梨恵インターンシップマネージャー進行のもと、北海道テレビ放送株式会社より宮

崎氏に加え、営業局営業推進部の梶原達也氏と編成局編成部の渡辺里沙氏が登壇し、自身の経験した職種の仕事内容やキャリアについてご説明いただきました。登壇した3名は全員が本学のOB・OGであり、それぞれの就職活動についてや先輩としてのアドバイス等、OB・OGならではの話も聞くことができました。

第3部は、第2部で登壇した3名と学生とでグループに分かれ、学生から直接質問を受ける座談会を実施しました。

学生からは仕事や業界の特徴、活躍人材やワークライフ、学生時代について

など次々と質問があり、ガイダンス終了後も多くの学生が質問を続けていました。

終了後には、学生から「マスコミ業界についての研究から部署についての詳しいお話、やりがいなど実際に働いている方々の生の声を聞くことができ勉強になった」「北大OB・OGということで、自分たちの感覚に寄り添ったお話を聞くことができた」などの感想がありました。

（キャリアセンター）

タイトル：インターンシッププレ研修 業界研究ガイダンス～マスコミ・エンタメ編～

日時：2024年7月16日（火）18：15～20：15

会場：クラーク会館

登壇者：北海道テレビ放送株式会社 宮崎のぞみ氏、梶原達也氏、渡辺里沙氏

企画・主催・当日運営：キャリアセンター



マスコミ業界について説明を行う宮崎氏



第2部パネルディスカッションの様子



グループに分かれての座談会

地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS） キックオフシンポジウムを開催

7月25日（木）に本学が主催、文部科学省、日本学術振興会（JSPS）の後援で、「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」において採択された「フィールドサイエンスを基盤とした地球環境を再生する新たな持続的食料生産システムの構築と展開」に係るキックオフシンポジウムをクラーク会館で開催しました。ハイブリッド形式で開催した本シンポジウムには約570名（うち、オンライン約350名）の参加がありました。

はじめに寶金清博総長による開会の挨拶があり、続く来賓挨拶では、鈴木直道北海道知事（北海道総合政策部の大矢邦博次世代社会戦略監が代読）、北海道経済連合会会長・北海道電力株式会社代表取締役会長の藤井 裕氏、総合科学技術・イノベーション会議の上山隆大議員、文部科学省科学技術・

学術政策局産業連携・地域振興課の池田一郎課長から本事業における本学への期待を賜りました。

次に、瀬戸口剛理事・副学長から本事業の取組概要の説明を行った後、本学の4名の教員からリジェネラティブ（環境再生型）な、低投入・高収量・低排出の農業・畜産や、安定・高収益・低排出の水産業を目指すための、農学、水産学、畜産学、生態学の各分野の研究を紹介しました。

シンポジウム後半のパネルディスカッションでは、西邑隆徳副学長の進行のもと、一次産業に関わる民間企業、大学発ベンチャー、地方自治体、研究者など、産学官のステークホルダー6名が一堂に会し、「ありがたい未来の食料生産システムの実現に向けて」をテーマに、各パネリストがそれぞれの立場や事例に基づいて意見を述べ、現在

の一次産業の現状からリジェネラティブな食料生産をどのように考えるか、ムーブメントを起こしてゆくにはどうしたらよいかなど、熱い議論が交わされました。また、会場でパネリストの発言を同時進行で絵や図形に描くリアルタイムグラフィックレコーディングを行い、参加者の議論への理解を深めました。オンライン参加者からも大きな注目を集め、シンポジウム全体の盛り上がりを一層高めました。

最後に、内閣府科学技術・イノベーション推進事務局の柿田恭良統括官からシンポジウムと本事業の展望について総評をいただき、横田 篤理事・副学長による挨拶で、盛況のうちに閉会となりました。

（研究推進部研究支援課）



寶金総長による開会の挨拶



シンポジウム会場の様子



パネルディスカッションの様子

北海道大学創基150周年記念募金（北大フロンティア基金）

北海道大学は、創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に北大フロンティア基金を創設しました。

奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、息の長い募金活動をするとしています。

2026年、北海道大学は創基150周年を迎えます。次の150年を見据えた記念事業のため、2023～2026年度の4年間、北大フロンティア基金は「創基150周年記念募金」として、皆様からのご寄附を募集しております。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金創設時累計	(6月30日現在)	49,344件	7,223,973,683円
うち、北海道大学創基150周年記念募金累計	(6月30日現在)	12,296件	1,059,205,126円

ご寄附状況

6月は1,418件55,581,809円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいている方々のご芳名を掲載させていただきます。
(五十音別・敬称略)

寄附者ご芳名（法人等）

医療法人友寿会伊丹腎クリニック、稲田整形外科、医療法人社団岩城産婦人科、太田内科循環器クリニック、キャリアバンク株式会社、社会医療法人鳩仁会、株式会社クボタ、クボタ環境エンジニアリング株式会社、医療法人社団琴似小児科クリニック、株式会社札幌メールサービス、シマーズネクスト株式会社、市立旭川病院、医療法人社団真風会みやわき眼科、住友金属鉱山株式会社、株式会社ダイイチ、医療法人ながのクリニック、株式会社日本旅行北海道、医療法人社団はぎさわ小児科クリニック、柏楊印刷株式会社、医療法人社団ひばりが丘子どもクリニック、藤田外科・整形外科、医療法人社団ふるた小児科クリニック、医療法人社団ふるや内科、北大CES14期会、北海道中央労災病院、特定非営利活動法人まちづくり情報センター、株式会社宮香アロマテック、医療法人むらしたこどもクリニック、メダクタジャパン株式会社、医療法人社団緑葉会

寄附者ご芳名（個人）

相川 一馬	合川 正幸	青井 良平	青木 俊介	青見 裕子	赤平 幸郎	浅賀 忠義	阿部 雅史
有馬 滋	伊賀 進	池田 美和	石井 哲夫	石井 悟	石垣 隆弘	石川 岳彦	石黒 信久
石田 重文	石橋 陽子	石渡 正子	市坂 有基	伊藤 貴啓	伊藤 智雄	伊藤 雄三	伊藤 大貴
井上 将希	井上 量雅	猪股 路子	井原 博	今井 晋	今村 雅寛	入澤 秀次	上田 雅敏
宇佐美 優	梅下 新介	梅本 由佳	蝦名 康彦	縁記 和也	遠藤 公憲	大神 英一	大河原 章
大久保和章	大塚 俊明	大坪 錦司	大原 正範	近江 亮	岡 敏明	岡田 英子	沖代 格次
小熊 豊	尾嶋 孝一	小田 庸男	小田代政美	小田原一史	小野 善平	小原 大和	葛西 眞一
嘉手川 淳	加藤 伸康	加藤 裕貴	加藤 博之	加藤 幹子	金川 眞行	蒲池 敦子	河原 英仁
川村 健	川村 茂	河本 充司	菊地 馨	岸本 理和	木滝 俊郎	北田 隆	衣川 暢子
木下 智樹	久保 康一	窪田 満	栗原 誠治	黒澤 誠治	黒澤 貴子	桑島 滋	古池 延好
小池 勇一	上月 浩	後藤 公則	小西 藤平	小林 一久	小林 清敏	小林 賢人	小林 一郎
小松 庸祐	齋藤 伸治	齊藤 晋	齋藤 久	齊藤 博義	齋藤 有	齊藤 慈円	榊原 純
坂本 大介	崎元 大志	佐々木 聡	佐々木武司	佐々木絹子	笹村 裕二	佐藤 泰男	佐藤 智信
佐野 仁美	佐野 功	三升畑元基	椎谷 紀彦	志済 聡子	信太 知	柴田 博	芝田 行徳
島 佳隆	清水 薫子	清水 秀昭	城原 輝男	新宮 康栄	新藤 高士	末永 通	菅原 憲

菅原 新也	杉浦 正俊	杉江 和男	杉本 聡	杉山 誠	鈴木 貴之	砂川 隆久	瀬名波栄潤
高瀬 愛子	高瀬登志彦	高橋 千世	高橋 英樹	高柳 涼	田栗 和奈	竹崎俊一郎	田中 彰
田中 千尋	田中 諒	田村 裕昭	千葉 脩	千葉 隆昭	千廣 ナナ	長 和俊	土家 琢磨
寺澤 睦	當間 正次	徳田 順之	戸澤 雄介	豊田 威信	樋本 毅	鳥潟 肇	永井 礼子
中川 敦夫	中川 隆公	長島 浩二	仲西 正憲	中根 直樹	中野 高広	長濱 良一	中村 楯夫
中村 雅夫	鍋島 龍一	新美 大伸	西方美智子	西原 広史	新田 孝彦	庭野 陽樹	根本 叔治
野田 正彰	萩原 直樹	橋本 直幸	蓮田 哲彦	幡鎌 俊昭	服部 哲夫	服部 裕一	花田 秀一
花田 裕子	浜田 昌宏	早瀬 浩司	原 啓介	原田 浩	原田 博幸	番場 堅	稗田 哲也
飛騨 一利	平井 康市	廣重 勝彦	廣瀬 直人	深田 靖久	福島 香子	福島 義光	福永 悟郎
藤澤 裕子	藤田 正夫	藤田 美芳	藤田 芳康	藤本 俊郎	藤森 研司	藤原 佳典	古川夕里香
古瀬 優太	古田 康	本間 明宏	本間紀久雄	松井 耕二	松居 喜郎	松浦 弘司	松永 智靖
松原 謙一	松村 真司	松村 道哉	真屋 幹雄	水島 正人	水野 貞俊	水野 征雄	三田部 充
南 太人	南田 大朗	源 哲雄	峯崎 賢亮	宮尾幸之助	宮岸 修	宮田 信幸	宮本 雅章
宮森 保紀	村上 泰一	村上 広輝	村瀬徳啓充	村瀬 亮太	村田 啓	森岡 正信	森川 茂樹
矢ヶ崎啓一郎	矢島 宇生	安田 将吾	山内 太郎	山口 晴敬	山崎 成夫	山崎 康博	山田 豊
山中 幹基	山吹 匠	山本 浩史	山本 憲治	山本 征司	山本理恵子	湯本 勳	横井 有紀
横田 篤	横田 卓	横山喜世子	横山 考	吉田 久俊	吉田 広志	米村あずさ	林 国雄
RENATO GUSI	若狭 哲	渡辺 徹	渡邊 尚吉	渡部 克将			

＜寄附者への特典＞

創基150周年を記念した銘板

創基150周年を記念した銘板をご用意しました。銘板は、これまでのご寄附累計金額をもとに、本学総合博物館に掲出させていただきます。個人・法人共に、ご寄附の累計が1億円以上でプレミアムゴールド、1千万円以上でゴールド、500万円以上でシルバー、100万円以上でブロンズとなります。

既存のホワイト銘板は累計20万円以上が対象です（令和2年度以前は総合博物館、令和3年度以降は百年記念会館に掲出）。なお、銘板については、年度内に賜ったご寄附の累計を取りまとめ後、翌年8～9月頃を目途に掲出いたします。

※このほか、ご寄附の金額に応じ、オリジナルグッズや感謝状の贈呈、御礼の場など様々な特典をご用意させていただきます（詳細はこちらでご確認ください <https://www.hokudai.ac.jp/fund/gratitude/>）

＜感謝状の贈呈＞



一般財団法人砂防・地すべり技術センター様
（令和6年6月13日）



北海道電力株式会社様（令和6年6月20日）

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員からの寄附」にアクセスしてください。

<https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff>

①給与口座からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（給与口座からの引落）」をダウンロードし、ご記入の上、卒業生・基金室基金事務担当に提出してください。

②郵便局または銀行への振り込み

卒業生・基金室基金事務担当にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、卒業生・基金室基金事務担当にご持参ください。

申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか、卒業生・基金室基金事務担当にもご用意していますので、お越しいただいてからご記入いただくことも可能です。

④クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ

(<https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi>) の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 卒業生・基金室基金事務担当（事務局・学内電話 2017）

（社会共創部広報課）

ビジネスコンテストで全学教育科目「キャリアデザイン～自分の未来を自分で考えよう～」の学部1年生チームが入賞

全学教育科目「キャリアデザイン～自分の未来を自分で考えよう～」(責任教員: 高等教育推進機構 川上あき 特任講師。以下、キャリアデザイン授業)の学部1年生のチームが、株式会社マイナビ主催のビジネスコンテスト「課題解決プロジェクト」に応募し、全524チーム中4位に入賞しました。

課題解決プロジェクトは株式会社マイナビが主催する企画アイデアコンテストです。実際の企業・団体が出題するテーマに対し、学生が解決策を考え、企画書にまとめてオンラインで提案し審査されます。今回、キャリアデザイン授業では、株式会社オムロンの「オムロンのコア技術を用いて、社会

的課題の解決に向けて取り組むべきことを提案してください」というテーマに取り組みました。

受講学生は、ビジネス企画書・プレゼンテーションのポイントなどの基礎講座を受けたのち、応募企画の中間発表や応募前の最終発表など複数回のプレゼンテーションを行いました。発表内容に対しては、担当教員やキャリアセンターの職員、協力企業から学生へのフィードバックを行いました。教職員、協力企業は、企画書に盛り込んだほうがよい内容や改善点など、ビジネス目線でのアドバイスを行うにとどめ、実際の企画の内容から企画書の作成まで、すべて学生自身が考えて実施

しました。また、プロジェクト進行においての自分の強みや課題を分析するツールや、学生個人と教員の面談などを行い、難しい課題にチームで協力して挑戦しました。

株式会社オムロンのテーマには全国の大学等の学部から博士課程まで学年を問わず524チームが応募したとのことですが、キャリアデザイン授業からは2チームが応募し、1チームが上位20%以内、1チームが4位に入賞し、学部1年生を中心としたチームが大健闘する結果となりました。

(高等教育推進機構)

マイナビ課題解決プロジェクト入賞ページ: https://job.mynavi.jp/start/project/theme_2024-1-1/report/

キャリアデザイン授業入賞チーム: チーム名「ぬぬはいゆ」

入賞者: ガルシア パメラ、高橋優太、山田こころ、赤石澤一輝、木戸大志 (全員 総合教育部1年)

担当教員: 高等教育推進機構 特任講師 川上あき (責任教員)、教授 亀野 淳

協力: 学務部キャリア支援課 インターンシップマネージャー 吉田梨恵、株式会社マイナビ 佐々木理恵・風間涼太



審査結果を確認する入賞チーム「ぬぬはいゆ」の学生



最終授業でプロジェクト進行を振り返って発表した入賞チームメンバー

衛生管理者連絡会を開催

7月5日（金）に、部局で安全衛生業務に従事している衛生管理者等の教職員を対象とした衛生管理者連絡会を、オンラインと対面のハイブリッドで開催しました。参加者は対面11名・オンライン26名の合計37名でした。

行松泰弘理事の挨拶の後、安全衛生本部の川上貴教教授から、本学の安全

教育体制、消火活動のためのハザードマップ、衛生管理者と産業医による職場巡視体制、事故情報収集体制など、部局での安全衛生担当者も関わる主な業務について説明がされた後で、各参加者から、現在担当している業務、日頃困っていることや意見・質問などについてお話しいただき、出された意見

をもとに活発な意見交換が行われました。

本連絡会は、衛生管理者をはじめ、安全衛生業務に携わっている方々の業務に役立てていただくため、引き続き開催していく予定です。

（安全衛生本部）



行松理事の挨拶



部局の安全衛生業務について説明する川上教授



連絡会の様子

アントレプレナーシップ教育の出張講義を道内各地の学校で展開

産学・地域協働推進機構は、北海道内の中学校や高校から依頼を受け、アントレプレナーシップ教育の道内展開を目的に、出張講義を実施しております。6月は、北海道北広島高等学校、北海道岩見沢緑陵高等学校、札幌市立義務教育学校福移学園にて講義を行いました。

出張講義は、各学校の総合的な探究の時間のカリキュラム内にて行い、その後の生徒の探究学習に繋がるように、学校ごとに講義内容を設計して実施しました。また、本講義は、道内の大学生が運営補助として参加すること

で、中学生から大学生まで一貫したアントレプレナーシップ教育プログラムとしています。今後も、アントレプレナーシップの涵養に向けて、様々な教育を提供してまいります。

(産学・地域協働推進機構)

実施内容①

実施日：6月7日（金）

対象：北海道北広島高等学校普通科2年生 280名

講義内容：北広島市の地域課題を解決するビジネスアイデアを考えるカードゲームを用いたワークショップ

実施内容②

実施日：6月25日（火）

対象：北海道岩見沢緑陵高等学校普通科1年生 120名

北海道教育大学岩見沢校 13名（運営補助）

講義内容：デザインシンキングを用いて岩見沢のテーマパークの課題を解決するアイデアを考えるワークショップ

実施内容③

実施日：6月14日（金）、21日（金）

対象：札幌市立義務教育学校福移学園7～9年生（中学生） 22名

北海道大学 4名 藤女子大学 1名（運営補助）

講義内容：インタビュー調査によって課題を見つけ、解決するアイデアを考えるワークショップ



北広島高校での出張講義



岩見沢緑陵高校での出張講義



福移学園での出張講義

「ふくしまイノベ未来講座」の一環として高校生への講義を実施

北大発認定スタートアップ企業の大熊ダイヤモンドデバイス株式会社の創業者である、工学研究院の金子純一准教授と、産学・地域協働推進機構の椎名希美特任准教授、岩城圭司スタートアップ創出マネージャーは、福島イノベーション・コースト構想の「ふくしまイノベ未来講座」の一環として、福島県立相馬高等学校における総合的な探究学習のカリキュラム内で講義を実施しました。

福島イノベーション・コースト構想とは、東日本大震災及び原子力災害によって失われた浜通り地域等の産業を回復するため、新たな産業基盤の構築を目指す国家プロジェクトです。「廃

炉」「ロボット・ドローン」「農林水産業」といった重点分野におけるプロジェクトの具体化を進めるとともに、産業集積の実現、教育・人材育成、交流人口の拡大、情報発信等に向けた取り組みを進めています。「ふくしまイノベ未来講座」は教育・人材育成の取り組みとして、これまでも福島県内全域の小中高校にて、様々な専門家たちが出前講座を行っています。

本講義の前半は、金子准教授が創業の経緯、福島第一原子力発電所の廃炉、福島復興への取り組みの3点について講演を行いました。後半は、椎名特任准教授らが、アントレプレナーシップのワークショップ「自分の好きな

こと・得意なことを見つけよう」を実施しました。自分の「好きなこと」「得意なこと」「社会から必要とされていること」「稼げるもの」の4つが重なり合う「ikigai（生きがい）」について説明し、自分の好きなこと・得意なことに気が付くことで、今後の総合的な探究学習のテーマ設定、ひいては生徒自身の生きがいを考える機会に繋がることを目指しました。

本講義は、福島イノベーション・コースト構想推進機構様のご協力のもと実施し、福島県で講義をする貴重な機会をいただきました。

（産学・地域協働推進機構）

実施内容

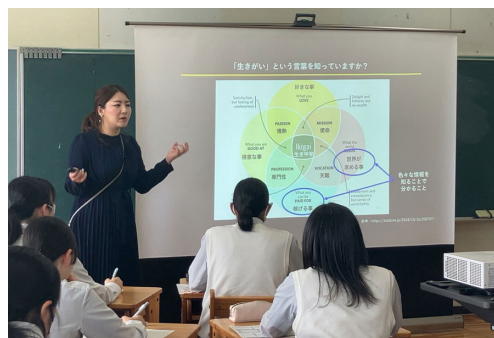
日時：7月2日（火）13：30～15：00

対象：福島県立相馬高等学校2年生

会場：大熊インキュベーションセンター（福島県）



金子准教授の講義



椎名特任准教授の講義



ワークショップの様子



会場（大熊インキュベーションセンター）

産学・地域協働推進機構の椎名希美特任准教授が沖縄でのスタートアップカンファレンス「KOZAROCKS 2024」に登壇

産学・地域協働推進機構の椎名希美特任准教授は、沖縄で行われたスタートアップカンファレンス「KOZAROCKS 2024」に登壇しました。

KOZAROCKSは令和4年にコザスタートアップ商店街のオープンと同時に始まった都市型スタートアップカンファレンスです。かつて米軍基地の門前町として栄え、今も国を超えた独自の文化が息づくコザを舞台に、最新のテクノロジー、クリエイター、エンタメ、政治、経済、スタートアップ、スモールビジネスなど、各分野の挑戦者が集い、トークセッションやスタートアップピッチ、交流パーティーなどのコンテ

ンツを通じて、新たなイノベーションにつながる出会いを提供されています。

開催4回目となる今回は、「仕事と子育てを両立する女性起業家の挑戦」「KOZAROCKS（沖縄）×NoMaps（北海道）一街フェスが拓くローカルイノベーションの可能性」及び「オープンイノベーションの現在地～今、地域企業に求められる役割」などのテーマで、広くディスカッションが展開されました。椎名特任准教授は、「アントレプレナーシップを育んだ“人財”を社会はどう受け入れるか」というテーマのセッションで、本学や北海道地域で実施しているアントレプレナーシ

ップ教育プログラムの現状とその将来展望を基軸に、今後社会に求められ活躍する人財を育成し、企業や社会が彼らを受け入れていくためにはどうすべきか、などについて議論を行いました。「KOZAROCKS 2024」には、北海道のスタートアップ企業や支援人材が多く参加し、大学間の連携や人材交流の場としても有効に機能しました。

今後も、アントレプレナーシップの涵養や北海道でのスタートアップエコシステムの形成に向けて、様々な機会に挑戦してまいります。

（産学・地域協働推進機構）

実施内容

日時：7月6日（土）13：00～21：00

場所：コザスタートアップ商店街（沖縄県）

主催：KOZAROCKS 2024実行委員会

公式サイト：https://koza.rock/kozarocks2024



カンファレンスの様子



椎名特任准教授の登壇時の様子（右から2人目）



会場（商店街）



会場（バルミラ夜市）

メルボルン大学先住民担当理事一行の再訪

7月22日（月）から31日（水）の間、本学の戦略的国際パートナー校である豪州メルボルン大学の先住民担当 Deputy Vice-Chancellor（理事相当）一行が本学を再訪しました。

バリー・ジャッド理事、アーロン・コーン先住民知識研究所長、マーゴ・イーデン先住民戦略部長、カースティン・クラーク副部長、リチャード・チェンホール医学・歯学・保健科学研究教授／ヘルスエクイティセンター長、クリステン・スミス同研究院准教授は、一行としては昨年6月に続く2度目の来札となり、また、同大学先住民知識研究所の職員であるタルニン・カローベ、キルヤニ・カローベ両氏、同大学教養学院博士課程学生のルビー・バナティン氏が帯同しました。なお、ジャッド理事、コーン所長、チェンホール教授は、本学国際連携研究教育局（GI-CoRE）先住民・文化的多様性研究グローバルステーション（GSI）の招へい教員になっています。

一行はGSIの長であるアイヌ・先住民研究センターの加藤博文教授が開催する北海道サマーインスティテュートの「アイヌ・先住民研究入門Ⅱ：アイヌ文化遺産と文化的景観」の見学を行い、札幌市アイヌ文化交流センターを訪問、ハイブリッド開催したパネルディスカッションを通し、参加学生たちにメルボルン大学の先住民コミュニティ連携活動の紹介を行いました。

寶金清博総長、山口淳二理事・副学長（ダイバーシティ・インクルージョン担当）、瀬戸口剛理事・副学長（研究担当）、山本文彦理事・副学長（アイヌ共生推進本部担当）、加藤教授、山内太郎環境健康科学研究教育センター長との会談は、両校のこの3年間の連携を振り返る機会となり、ジャッド理事

から「これまで、豪州にとっての先住民研究の国際連携といえばカナダやハワイだったが、北海道や台湾との連携を通し、環太平洋で先住民コミュニティ、研究者ネットワークを繋ぐことができる。北大との連携はメルボルン大学にとって得難いものであり、アイヌとアボリジニの若い世代と社会を繋ぐ両校の役目は大きい」との話がありました。メルボルン大学の先住民出身教職員・学生の数値目標に向けて、学士課程から博士課程まで入学要件の緩和を行っていること、出足が遅かったものの今や先住民担当執行部と研究所を備え、マネジメントの点で他の豪州の大学をリードする存在となっていること、大学が所有する先住民資料を集約し先住民コミュニティがアクセスしやすいようにする場所を開設予定であること、米国ハーバード大学が奴隷史への認識を示したことを参考に、「A History of Indigenous Australia and the University of Melbourne（先住民のオーストラリアとメルボルン大学の歴史）」という自省本の発行に至ったこと等、先住民案件への同学のコミットメントが共有されました。

両大学の先住民研究者たちは、2024年10月にメルボルン大学で開催されるグローバルヘルスに係るワークショップで再会するほか、2025年に北海道で開催される国際先住民フォーラムに際し、北海道と豪州双方の先住民コミュニティとの連携を含めた、集中共同教育プログラムを計画しています。先住民研究という両校の特色ある研究分野について、官学コミュニティによる交流の深化が期待されます。

（国際連携研究教育局、
アイヌ・先住民研究センター、国際連携推進本部）



本学執行部と来訪者一行



左から加藤教授、瀬戸口理事・副学長、
寶金総長、山口理事・副学長



左からジャッド理事、イーデン部長、コーン所長



会談の様子

GSDC (GLOBAL SUSTAINABLE DEVELOPMENT CONGRESS) 2024に横田 篤理事・副学長が登壇

横田 篤理事・副学長は、6月10日（月）から6月13日（木）にタイのクイーン・シリキット・ナショナル・コンベンション・センターで開催されたGSDC2024にパネリストとして招聘され、発表を行いました。

GSDC2024は、イギリスの高等教育専門誌「Times Higher Education (THE: ティー・エイチ・イー)」が主催したものであり、87か国、1,447の機関から3,189名の世界的なオピニオンリーダーやイノベーターが参加しました。本学からは横田理事・副学長のほか、岩淵和則農学研究院教授・総長補佐、加藤悟サステナビリティ推進機構教授、秦 絵里国際部長、竹内裕美子URA、武井美雪特定専門職員の6名が参加しました。

横田理事・副学長は、日本の高等教育機関からは唯一の登壇者として、6月13日（木）に行われたパネルディス

カッションに登壇しました。本セッションは、SDGsの達成に不可欠な変革に取り組む六つのコアトラックの一つである「持続可能な食料、土地、水、海洋」のうち、「生物多様性システムに関する知識ギャップを埋める」というテーマで行われました。横田理事・副学長からは、本学の教育的取り組みとして、バーチャルではなくリアルな自然環境の中で生態系や生物多様性を体験する機会をできるだけ多く提供していること、大学は中立的な立場を活かして社会のプラットフォームを形成できること及び学内外のエンゲージメントを高めることの重要性について報告を行いました。議論の中では、教育による行動変容の評価方法も変容する必要があることなどが指摘されました。

本会議での議論を通じて、参加者は、着実に生じている気候危機を受

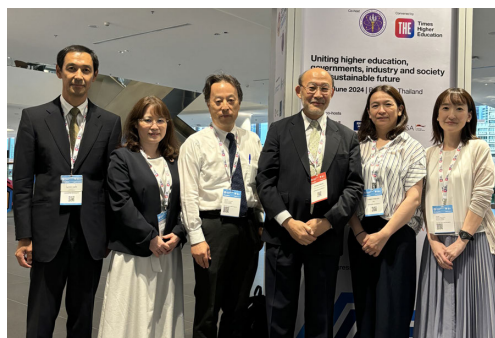
け、その困難を前進のチャンスと捉えて行動変容していくことの重要性を認識しました。また、ステークホルダーとの連携強化、社会のプラットフォームとしての大学の役割の多様化及び高等教育機関の国際化が求められることを認識し、本学が推進する活動が世界の高等教育機関が目指す方向性と一致していることを確認しました。

なお、6月11日（火）には、SDGsを評価対象とした「THEインパクトランキング2024」のプレ発表が行われました。本ランキングには125の国と地域から2,152の高等教育機関が参加し、本学は総合ランキング世界72位、国内では5年連続となる1位にランクインしました。

（サステナビリティ推進機構）



会場に設置されたGSDCのロゴ前での集合写真
（左から岩淵総長補佐、横田理事・副学長、秦部長、加藤教授）



GSDC2024への本学からの参加者（左から加藤教授、秦部長、岩淵総長補佐、横田理事・副学長、竹内URA、武井特定専門職員）



パネルディスカッションの様子



登壇する横田理事・副学長

HSI科目「北大フィールドサマースクール」を開講

サステナビリティ推進機構SDGs事業推進部門は、Hokkaidoサマー・インスティテュート（HSI）において、学生・社会人を対象とした科目「北大フィールドサマースクール」を、6月28日（金）から30日（日）まで3日間の日程で開講し、社会人9名、学生9名、計18名が参加しました。

6月28日（金）は、北海道ワイン教育研究センターで、加藤 悟サステナビリティ推進機構教授によるガイダンス及び講義、曾根輝雄農学研究院教授による講義及びセンター棟内の見学を行いました。

6月29日（土）は、午前中に北方生物圏フィールド科学センター余市果樹園を訪問し、栽培地や品質分析機器の

実演見学を行いました。午後は余市町にある株式会社平川ワイナリーを訪問し、平川敦雄代表取締役によるワイン用ブドウ栽培や醸造についての講義及び農園でブドウ棚の整備やブドウの誘引作業の体験学習を行いました。

6月30日（日）は、北方生物圏フィールド科学センター苫小牧研究林を訪問し、中村誠宏苫小牧研究林長・北方生物圏フィールド科学センター教授による講義及び森林資料館・森林記念館の見学を行いました。午後は、苫小牧研究林の林内へ移動し、苫小牧の地質の特徴や研究林内で実施している調査・研究の紹介を行った後、受講生を3つのグループに分け、毎木調査をベースにした樹木の胸高直径の測定と樹種の

判定のワークショップを実施しました。

受講生は、3日間の講義を通じて、本学のフィールドを実感するとともに、ワインを例題として農場から食卓までの付加価値の考え方を学び、自然の力を利用して生態系と人間のいずれにも利益をもたらす方法で社会的課題を解決することの重要性を学習しました。

サステナビリティ推進機構は、今後も学内外のステークホルダーと連携し、「持続可能な社会」の実現につながる教育・研究の取組・発信を更に進めていきます。

（サステナビリティ推進機構）



平川ワイナリーでの集合写真（右端：平川代表取締役）



苫小牧研究林での集合写真（最後列左端：中村教授）

第3回北大・地球研連携シンポジウムを開催

7月2日（火）、百年記念会館及びオンラインにて、第3回北海道大学・総合地球環境学研究所（以下、地球研）連携シンポジウムを開催しました。本シンポジウムは、両機関の連携協定締結を記念して2022年11月に本学で開催したキックオフシンポジウムに続けて、第2回は地球研で、第3回となる今回は再び本学で開催しました。

本学から横田 篤理事・副学長、地球研から山極壽一所長によるご挨拶の後、三つの研究発表セッションで、それぞれの機関から計6件の幅広い分野

にわたる講演がありました。パネルディスカッションでは、講演内容への質疑応答に続けて、会場からの「諸外国と比較して日本人の意識の低さについてどう考えるか」、オンライン参加者からの「研究者の視点から、分析・研究していくと、未来は見えてくるものか、現在の知見、予測から創り出していくものか」という質問等に対して議論するなど、活発な意見交換がなされました。

今後も、本学と地球研は研究、教育においてさらなる協力体制を築いてい

きます。

なお、本シンポジウムはZoomウェビナーにより配信され、アーカイブを本学公式YouTubeチャンネルで公開しています。

本学公式YouTubeチャンネル
<https://youtu.be/tRImpAKOCiE?si=OcpK0VKmTcFvm-E5>

（サステナビリティ推進機構、環境健康科学研究教育センター）

プログラム

日時：2024年7月2日（火）13：30～17：30

会場：百年記念会館・オンライン

司会：山内太郎 北海道大学環境健康科学研究教育センター長、大学院保健科学研究院教授

浅利美鈴 総合地球環境学研究所 教授

挨拶：横田 篤 北海道大学理事・副学長

山極壽一 総合地球環境学研究所 所長

セッション1：

「環境化学物質と子どもの健康：脱プラスチックとともに考える子どもの未来」

池田敦子 北海道大学大学院保健科学研究院 教授

「同位体環境学の視点からの地球環境研究」

陀安一郎 総合地球環境学研究所 教授、副所長

セッション2：

「人新世における北極域研究の可能性：新しい北極域学の創出に向けて」

大西富士夫 北海道大学北極域研究センター 特任准教授

「アラビア乾燥地の考古地理学：温暖化と水害多発の時代に」

近藤康久 総合地球環境学研究所 教授

セッション3：

「青色しか見えない人はそのことを認識できない—社会を変えるエージェンシーを育てる」

山中康裕 北海道大学大学院地球環境科学研究院 教授

「ごみとSDGs から考える社会と暮らし」

浅利美鈴 総合地球環境学研究所 教授

パネルディスカッション：

モデレーター：山内太郎

パネリスト：池田敦子、陀安一郎、大西富士夫、近藤康久、山中康裕、浅利美鈴



両機関の長及び司会者（左から山内教授、
 寶金清博総長、山極所長、浅利教授）



集合写真（シンポジウム登壇者等）



横田理事・副学長による挨拶



パネルディスカッションの様子

「北大病院PHC presents～おいしく食べて予防医療！MIND食とは～」を開催

7月14日（日）に、北海道放送株式会社（HBC）が主催する「HBC赤レンガプレミアムフェスト」において、ステージイベント「北大病院PHC* presents～おいしく食べて予防医療！MIND食とは～」を開催しました。

サステナビリティ推進機構SDGs事業推進部門が企画をコーディネートした本イベントでは、北海道大学病院経営戦略部の西田 睦准教授、同栄養管理部の熊谷聡美副部長及び同糖尿病・内分泌内科の中村昭伸診療准教授が登壇しました。

イベントは、HBCの森結有花アナウンサーの司会により進行了ました。はじめに、熊谷副部長から、MIND食が認知機能の低下予防を見込むことがで

きる食事法であることや、MIND食として推奨する10の食品と減量を勧める5つの食品を紹介しました。続いて、中村診療准教授から、「糖尿病」が認知症リスクを上げることがを解説しました。最後に、西田准教授から、PHCが遺伝子の情報から個別に病気になるリスクを知り、病気になる前に食事・運動を楽しく取り入れ自ら予防する、次世代型健診を行う施設であることを紹介しました。また、イベントの中では、MIND食と糖尿病に関するクイズを出題したほか、MIND食弁当の試食を5食限定で提供し、観客からの感想を聞くなど、登壇者とのやり取りを行いました。

イベント終了後には、アンケートに

回答いただいた50名にオリーブオイルとクランベリーが入った「北大カフェごはんMIND食クッキー」と北海道大学病院栄養管理部監修「塩を加えず焼き上げた2種の豆パン」をプレゼントしました。

サステナビリティ推進機構は、今後も学外のステークホルダーと連携し、「持続可能な社会」の実現につながる教育・研究の取組・発信を更に進めていきます。

*PHC：Personal Health Center（パーソナルヘルスセンター）の略

（サステナビリティ推進機構）



登壇者と司会の森アナウンサー



登壇者の様子



MIND食メニューを解説する西田准教授



血糖値クイズを行う中村診療准教授

国際連合訓練調査研究所（ユニタール）広島事務所長による講演会を開催

サステナビリティ推進機構SDGs事業推進本部は、施設部協力のもと、7月17日（水）、国際連合訓練調査研究所（ユニタール）広島事務所の三上知佐所長による講演会を、全教職員を対象にオンラインで開催しました。

三上所長からは、「持続可能な社会に向けて課題解決を担う人材を育成する～UNITAR～」と題して、同事務所が平和と繁栄のための広島発信の人材

育成に貢献していることや、2023年度には約7,000人が同事務所の実施した研修を受講したことなどの活動紹介が行われました。講演後の質疑応答では、本学においても平和についての教育が重要であるとのコメントが参加者からあったほか、両機関における連携の可能性などについて、活発な意見交換が行われました。オープンエデュケーションセンター（OEC）協力のもと実

施した本講演会は、江本理恵高等教育推進機構教授が司会を務めました。

なお、講演会に先立ち寶金清博総長、横田 篤理事・副学長への表敬訪問が行われ、三上所長からユニタールの活動紹介を受けた後、主に発展途上国での両機関の貢献について意見交換が行われました。

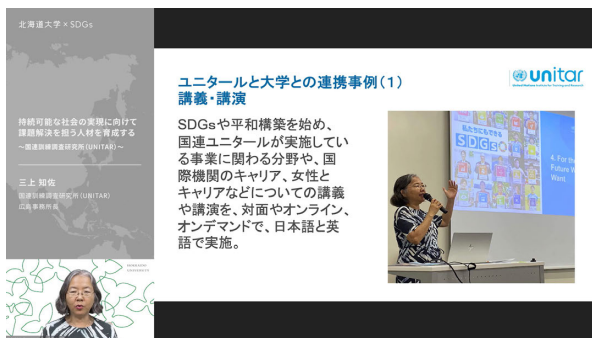
（サステナビリティ推進機構）



表敬訪問する三上所長



表敬訪問時の集合写真（左から平野正幸施設部長、横田理事・副学長、三上所長、寶金総長、江本教授、加藤 悟サステナビリティ推進機構教授）



三上所長による講演の様子



意見交換の様子

「留萌管内高等学校・北海道大学SDGs・ゼロカーボンプロジェクト2024」プレワークショップを開催

2022年度より、北海道教育庁留萌教育局と本学は連携して、SDGsやゼロカーボンを題材に高校生が管内の課題を探究し、その成果を発信することで地域住民のSDGs・ゼロカーボンの理解促進、行動変容を図るプロジェクトを行っています。5月28日（火）にオンラインでキックオフミーティングを実施し、参加校ごとに探究活動をスタートしました。7月22日（月）には、本プロジェクトのプレワークショップを学術交流会館で開催しました。

本プロジェクトの初年度の参加校は留萌高等学校1校のみでしたが、2023年度及び2024年度は留萌管内の5校が参加し、このうち今回のプレワークショップには、4校（留萌高等学校、苫前商業高等学校、羽幌高等学校、天塩高等学校）から生徒21名及び教諭4名、北

海道教育庁留萌教育局から職員4名、北海道立教育研究所から助言者1名が参加しました。

プレワークショップでは、最初にサステナビリティ推進機構の加藤 悟教授が、令和6年版環境・循環型社会・生物多様性白書を基に、炭素中立・循環経済・自然再興とSDGsについて解説しました。

昼休みを挟んだ後、「折り紙の先端技術への応用」と題して、大学院教育推進機構の繁富香織准教授が講義を行い、自身が研究者となった心構えと、折り紙技術の多分野での応用について解説しました。

続いて、「大学で学ぶSDGs」と題して、出村 誠総長特命参与が講義を行い、自分たちの地域を知り、地域で自分たちの取り組みを探すことの重要

性について解説しました。

講義後は、生徒たちがこれまで取り組んできた探究活動について、ワールドカフェ方式で討論を行いました。他校生徒などとの交流を通じて、さまざまな視点からの見方や考え方を知り、それぞれが取り組む課題への理解を深めていきました。

最後に、助言者などから今後の探究活動に向けてのアドバイスを行い、プレワークショップは終了しました。

今後は、参加生徒自らがさらに探究活動を進め、本学教員や大学院生の指導を受けながら年度末に向けてプロジェクトの成果をまとめる計画となっています。

（サステナビリティ推進機構）



講義を行う繁富准教授



講義を行う出村総長特命参与



講義を行う加藤教授



ワールドカフェに取り組む生徒たち

令和6年度第1回サステイナビリティ推進員会議を開催

サステイナビリティ推進機構は、7月24日（水）、令和6年度第1回サステイナビリティ推進員会議をオンラインで開催しました。本会議には、各部局のサステイナビリティ推進員及び同補佐等、89名が出席しました。

はじめに、サステイナビリティ推進機構長の横田 篤理事・副学長から開会挨拶及び「サステイナビリティ推進員制度について」の説明を行いました。続いて、施設部施設企画課から「令和6年度夏季の省エネルギー対策について」の説明を行い、「省エネルギー対策の手引き（令和5年12月改定）」（*注1）や電力モニタリングシステム（*注2）を活用していただくよう協力を要請しました。

次に、施設部環境配慮促進課から、「中央ローン・農学部ローン及びエルムの森の緑地の利用について」「2023年度札幌キャンパスにおけるエキノコックス調査報告と予防について」及び「ニセアカシア、ニワウルシの駆除について」の説明を行いました。

その後、サステイナビリティ推進機構の加藤 悟教授から、「北海道大学×SDGs」及び「デジタルサイネージ」への情報提供依頼及び「北海道大学SDGsスタートアップガイドブック2024『ダイジェスト版』『本編』の公開について」（*注3）の報告を行いました。

最後に行われた意見交換では、エキノコックス症対策について、推進員よりさまざまな意見が寄せられ、サステイナビリティ推進機構及び施設部にて、エキノコックス症対策の周知等を引き続き行うこととなりました。

サステイナビリティ推進機構では、今後も引き続き、部局等と連携を図りながらサステイナビリティ推進に関する活動を実施してまいります。これらの活動はキャンパスの維持・管理や財政等に密接に関わる課題でもあり、本学として持続可能な社会の実現及び未来づくりに貢献していくためにも、全学で一丸となって進めていきたいと考えています。皆様のご理解・ご協力の程、よろしくお願いいたします。

*注1（学内限定）省エネルギー対策の手引き
<https://www.facility.hokudai.ac.jp/wp-content/uploads/2023/12/9419005900f1bf22c8afa7da6ab89f27.pdf>

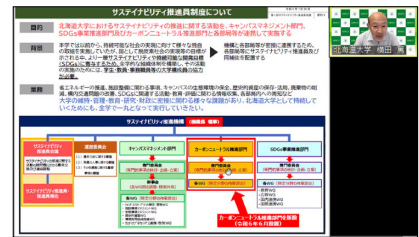
*注2（学内限定）電力モニタリングシステム
<https://zengakudenryoku.osc.hokudai.ac.jp/denryoku/>

*注3 北海道大学SDGsスタートアップガイドブック2024『ダイジェスト版』
<https://www.sustainability.hokudai.ac.jp/13240/>

（サステイナビリティ推進機構）

議題

1. サステイナビリティ推進員制度について
協力要請
2. 令和6年度夏季の省エネルギー対策について
3. 中央ローン・農学部ローン及びエルムの森の緑地の利用について
4. 2023年度 札幌キャンパスにおけるエキノコックス調査報告と予防について
5. ニセアカシア、ニワウルシの駆除について
6. 「北海道大学×SDGs」及び「デジタルサイネージ」への情報提供のお願い
報告
7. 北海道大学SDGsスタートアップガイドブック2024の公開について



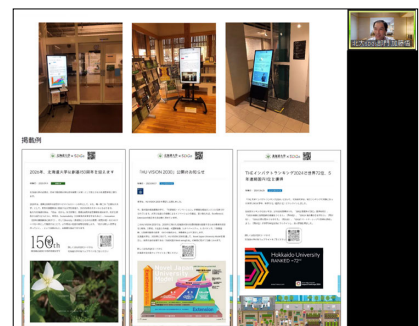
サステイナビリティ推進員制度について、横田機構長より説明する様子



省エネルギー対策について、施設部施設企画課より説明する様子



緑地の利用について、施設部環境配慮促進課より説明する様子



北海道大学×SDGsウェブサイト（<https://sdgs.hokudai.ac.jp/>）及びデジタルサイネージの利用について、加藤教授より説明する様子

上士幌町×北大まるごと交流祭を開催

広報・社会連携本部では、本学と自治体が連携し、地域の課題解決と活性化を目指す「自治体×北大まるごと交流祭」を令和6年度から開催することとし、その第1回となる「上士幌町×北大まるごと交流祭」を7月12日（金）にオープンイノベーションハブ「エンレイソウ」（以下、エンレイソウ）にて開催しました。

エンレイソウにおいては、7月8日（月）から上士幌町を紹介するパネルや特産品を展示し、当日は上士幌町で製造されたラスクとアイスクリームを使用した商品を販売する「上士幌町マルシェ」、上士幌町の役場職員や地域起業家の方々の取り組みをテーマに、学生や教職員が上士幌町の方々と交流する「上士幌町交流会」、上士幌町の

まちづくりに長年深く関わる工学研究院の森 傑教授の取り組みの話などを基に、参加者を交えて上士幌町と本学の研究や教育の連携の可能性についてディスカッションする「地域経営×大学リーダーゼミ」を実施しました。

当日は晴天で気温も高くなったこともあり、上士幌町マルシェには多くの方が訪れ、学生、教職員及び上士幌町関係者合わせて上士幌町交流会には58名、地域経営×大学リーダーゼミには71名と多くの方に参加していただき、また、竹中 貢上士幌町長も急遽来場し、大変な盛り上がりとなりました。

全体を通して、参加した学生からは「まちづくりに対してここまで楽しそうに話す人々に初めて会った。次はぜひ現地に行ってみたい」、教職員から

は「地域経営の当事者である自治体職員や地域経営に深く関わる北大の先生から話を聞くことができて大変貴重な機会だった」、上士幌町の方々からは「大学生や教職員などの専門性を持った方から見た上士幌町の魅力や課題、改善策を知ることができて大変有意義だった」といった声があり、上士幌町との関係を深める一歩となりました。

自治体×北大まるごと交流祭は、今後も様々な自治体とともに開催していく予定であり、次回は8月30日（金）に知床・斜里町×北大まるごと交流祭を開催する予定です。

（広報・社会連携本部）



上士幌町マルシェの様子



上士幌町交流会の様子



竹中上士幌町長（右）、工学研究院 森教授（左）



地域経営×大学リーダーゼミの様子

■部局ニュース

会計専門職大学院が公認会計士制度説明会を開催

7月3日（水）に、会計専門職大学院と日本公認会計士協会北海道会との共催により、「公認会計士制度説明会」を人文・社会科学総合教育研究棟にて開催しました。この説明会は、学部・学院を問わず広く本学の学生へ、公認会計士についての理解を深めてもらうことを主たる目的としています。

昨年に引き続き対面開催としつつも、今回は本説明会を会計学Ⅰの講義

内容として履修者へのインターネット配信も併せて行いました。日本公認会計士協会北海道会の新木 亘広報委員長の司会のもと、同会の富樫正浩会長による趣旨説明、会計専門職大学院の春日部光紀学院長の挨拶のあと、日常的な監査業務についての再現DVDを視聴しました。

続いて、同会会員の伊澤大地氏から公認会計士試験の合格状況やその後の

キャリア形成について、同会準会員の青木廣大氏より受験勉強の心構えや学生生活の過ごし方、監査業務での体験談などの講話を頂きました。終了後には、学生からの質問にも講師陣が分かりやすく回答してくださり、盛会のうちに終了しました。

（経済学院・経済学研究院・経済学部）



説明会の様子

令和6年度理学院優秀研究奨励賞授賞式を挙

理学院では、7月10日（水）に理学部本館において、令和6年度理学院優秀研究奨励賞授賞式を挙

行了。この賞は、理学に関する優れた研究を推進する学生を表彰し、研究の更なるステージアップを支援することを目的に、博士後期課程学生1年生及び2年生を対象として平成30年4月に設けら

れました。

今年度は、創造性に富む卓越した研究計画を立案し、これに取り組んでいる11名が受賞者に選ばれました。

授賞式では、永井隆哉理学院院长から、この賞の趣旨説明とお祝いの言葉が述べられた後、表彰状と記念品が一人ひとりに手渡されました。今後も、

この賞が本学院学生の基礎科学に関する深い洞察力と創造性、研究立案・推進能力の向上を一層喚起するものとなることを期待しています。

（理学院）



式典の様子



記念撮影

令和6年度医理工学院博士後期課程中間発表会を開催

医理工学院は、6月19日（水）に医学部百年記念館において、博士後期課程中間発表会を開催しました。

本発表会は医理工学院の学生が日々の研究成果を発表する場であるとともに、本学院の教育活動や研究成果等を多方面に知っていただくことを目的としています。例年、修士課程1年生を対象として秋頃に開催していますが、今年度からは新たに、博士後期課程2年生を対象とした中間発表会を初夏の時期に開催することとなりました。

発表は昨年度と同様に、学内関係者が一堂に会し、コロナ前と同様に聴講者の目の前で行われました。また、リアルタイム配信も併用したハイフレックス型で開催しました。当日は発表者4名、その他の学生・教職員36名に加え、企業からも9社（うちオンライン

参加3社）の方々にご参加いただき、本学院への関心の高さが伺えました。

医理工学院の学生には、それぞれ異なる分野の指導教員が2名ずつ配置され、本学院の研究領域である医学・理学・工学、保健学、生物学などの異分野を融合した領域における研究発表を適切に行えるよう配慮した教育・指導が行われています。

参加した博士後期課程2年生は入学時から前向きに研究に取り組んでおり、新進気鋭の発表者が揃いました。また、今回は発表がなかった修士課程の学生も参加し、先輩学生の発表や質疑応答を目の当たりにすることで、研究者としての研鑽を深めました。この取り組みが、学生のモチベーション向上に繋がり、今後に生かされることが期待されます。

ご参加いただいた企業の方々からも、各発表に対して大変高い評価を得るとともに、本発表会によって医理工学院における教育や研究について知見を深めることができとても有意義であった、今後も継続的に開催してほしい、などのコメントをいただきました。

また、本発表会終了後に医学研究院医理工学グローバルセンターが開催した企業との交流会では、学生、教員、企業代表者による活発な意見交換がなされ、盛会のうちに終了しました。

本イベントは来年度以降も引き続き開催し、医理工学院の教育活動の発展に寄与する機会となるよう、さらなる充実を目指していきます。

（医理工学院）



活発な議論が交わされた会場の様子

北海道大学納骨堂慰霊式を挙行

7月31日（水）、北海道大学納骨堂（札幌市豊平区平岸）において、医学研究院・医学院・医学部、歯学研究院・歯学院・歯学部、保健科学研究院・保健科学院・医学部保健学科及び北海道大学病院は、医学及び歯学の教育・研究のため尊い御遺体をささげら

れた御霊の御冥福をお祈りする慰霊式を執り行いました。

慰霊式には、畠山鎮次医学研究院長・医学院長・医学部長、網塚憲生歯学研究院長・歯学院長・歯学部長、矢野理香保健科学研究院長・保健科学院長・医学部保健学科長、渥美達也北海

道大学病院長ら21名が参列し、参列者全員による黙祷及び献花を行い、厳粛のうちに慰霊式が終了しました。

（医学院・医学研究院・医学部）



挨拶をする畠山医学部長



参列者による黙祷



献花の様子



献花の様子

薬学部が「第25回生涯教育特別講座夏季講演会」を開催

7月19日（金）、薬学部において第25回生涯教育特別講座夏季講演会を開催し、薬局や病院などの薬剤師の方々をはじめ、薬学部学生や教員等66名が参加しました。

薬学部生涯教育特別講座は、北大薬学部同窓生を含む医療関係及び関連領域の仕事に従事される方を対象に、医療における諸問題について最新の情報を提供することを目的として実施しています。

今回は北海道科学大学薬学部薬学科の齋藤佳敬教授に「がん薬物療法における薬剤師業務の進歩を考える」のタイトルでご講演いただきました。講演ではがん専門薬剤師の視点から、薬剤師業務の変遷、そして薬剤師による有害事象マネジメントの評価や症例報告の重要性について、具体的な臨床研究データや実臨床での取り組みを示しながら大変分かりやすく解説してくださいました。会場からはたくさんの質問

が寄せられ、活発な議論が行われました。

「具体的な薬剤の併用の予防効果について大変参考になりました」「患者さんから症状を聞くことや監査の大切さを学べたので、これからの業務で意識していきたいと思います」など多くの感想が寄せられました。

（薬学研究院・薬学部）



講師の齋藤教授



会場の様子

農学部が第40回あぐり大学「農家のお仕事からみえる世界 農業は楽しい！おく深い！」を開催

農学部において、7月13日（土）にあぐり大学を開催しました。あぐり大学とは、農学部と北海道新聞編集局が2014年度から共同で行っている連続親子講座で、「食と農」について、頭と体を使って学ぶ体験的講座です（農学同窓会後援）。農学部の複数の学科から、学生もスタッフとして参加しています。

第40回となる今回は、「農家のお仕事からみえる世界 農業は楽しい！おく深い！」のタイトルで、農学研究院の小林国之准教授（地域連携経済学）が

あぐり博士を担当しました。

農場経営において、植物や家畜を育てることは大事な仕事ですが、それだけではありません。植物、動物のことはもちろん、気候、土壌、資金、環境など様々な知識や経験が必要です。今回は、あぐり大学オリジナルの「農家体験ゲーム」を行い、4つのグループに分かれてミニトマトやじゃがいも、米を育て、3年間の収益を競ってもらいました。ゲーム中で各季節に起こる災害・病害やその対策及び各種イベントについて、あぐり博士に詳しく解説

していただき、昔は手作業だった農作業が現在は機械化、IT化が進み、人工衛星が活用されていることも教えていただきました。ゲームを通して、農場経営には資金やメンタル、そして運にも左右されるということなど、あまり知られていない農家さんの仕事の奥深さについて体験していただきました。

参加者の子どもたちからは、「楽しかった！」との声が多く聞かれ、イベントは盛況のうちに終了しました。

（農学部）



あぐり博士（小林准教授）の説明を聞く親子



ゲームを通して農場経営を学ぶ参加者たち



ゲームを通して農場経営を学ぶ参加者たち

2024年度北海道大学公開講座「外国語の学びについて考える(2)」を開催

メディア・コミュニケーション研究院及び外国語教育センターは7月20日(土)に高等教育推進機構にて2024年度北海道大学公開講座「外国語の学びについて考える(2)」を開催しました(後援:札幌市教育委員会、公益財団法人札幌国際プラザ)。

本公開講座は、昨年12月に同じタイトルで開催した公開講座の続編という位置付けになります。効率的なスキルの習得に焦点が置かれることの多い外国語学習を幅広く捉え直し、思考や情緒に豊かさをもたらす体験でもあることに注目し、言語を学ぶ意義と楽しみを再考する機会とすることが本講座の趣旨でした。

各セッションで紹介された主な内容

は次の通りです。①ネイティブが目標とされてきた外国語のスピーキング能力に対する、英語の国際的な位置付けの変遷の概観と国際的な測定指標をもとにした再考、②学習開始年齢、学習環境、学習の過程での誤りなど、言語学習に対するこれまでの迷信についての考察、③アイデンティティ、主観性、社会的規範、文化的知識など言語以外の要素がコミュニケーション能力に影響を及ぼしていることの解説、④高い能力を習得できなくとも、言語学習や言語に触れる体験には、言語の引き出しが加わる、あるいは言語や文化の多様性への気づきが得られるといった意義があることの紹介。

今回はグループワークや参加者への

問いかけ、セッション終了時の質疑応答など、前回にも増して参加者との活発なやりとりが行われました。また、公開講座終了後に参加者から多くのメールを頂戴したことも印象的でした。さらに前回に引き続き、今回も幅広い年齢層からの参加がありました。CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)でも言語学習は生涯にわたる事象ということが示されていますが、本公開講座はその一端を体現するような機会になったと考えています。

(メディア・コミュニケーション研究院、
外国語教育センター)

セッション1「外国語のスピーキング能力とは?—非母語話者の口頭能力の測定法からわかること」

山田悦子(メディア・コミュニケーション研究院准教授)

セッション2「外国語で日常会話を実践する:言語能力から会話ストラテジーへ」

ラドレ・アレクシ=クロード(メディア・コミュニケーション研究院特任准教授)

セッション3「外国語習得の神話あれこれ」

クラッスン・マーシャル(メディア・コミュニケーション研究院特任准教授)

セッション4「スキルの習得だけではない言語学習の意義とは?—言語レパートリー、異文化間能力という考え方」

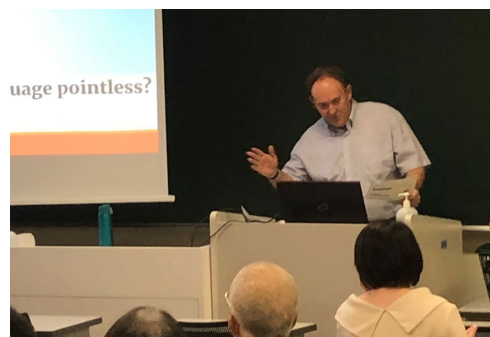
堀 晋也(メディア・コミュニケーション研究院助教)



公開講座の様様



ラドレ特任准教授によるセッションの様様



クラッスン特任准教授によるセッションの様様

低温科学研究所が中谷宇吉郎雪の科学館との連携協定に基づき講演会を実施

低温科学研究所では、石川県加賀市の中谷宇吉郎雪の科学館との連携協定に基づき、7月27日（土）に同科学館映像ホール（及びオンラインのライブ配信）にて講演会を実施しました。

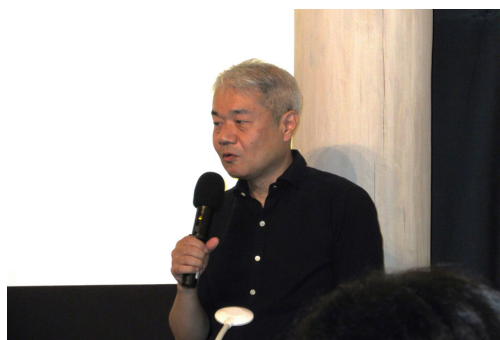
「科学の心をさがす旅vol.2」と題された講演会では、同研究所の渡部直樹所長の挨拶に続き、木村勇氣教授が「宇宙からの手紙の読み方」、青木 茂教授が「融ける南極氷床-海の役割を探

る」という題目で講演を行いました。木村教授は、宇宙から飛来した隕石中の鉱物粒子の形を「宇宙からの手紙」としてとらえ、ロケットを使った無重力実験から分かってきた「宇宙からの手紙の読み方」について講演しました。青木教授は、第61次南極地域観測隊隊長としての経験や、変わりゆく南極の今を探り地球環境の変化を予測する取り組みについて講演しました。

本講演会は、会場参加と、オンライン参加を合わせて70名以上の方に聴講いただきました。

講演会の最後に設けた質問コーナーでは、さまざまな年代の参加者より熱心な質問や意見が寄せられた他、多くの好意的な声をいただき、盛況のうちに終了しました。

（低温科学研究所）



渡部所長による挨拶



木村教授による講演



青木教授による講演

スラブ・ユーラシア研究センター2024年度夏期国際シンポジウム 「新世界の坩堝？20世紀夜明けのロシア境界地域」を開催

スラブ・ユーラシア研究センターにおいて7月18日（木）・19日（金）に、定例の夏期国際シンポジウムが開催されました。

ロシアによるウクライナ侵攻を受け、北ユーラシアの歴史について、今までのロシア中心的な見方を大幅に見直さなくてはなくなりました。本センターはかねてより大国の研究というより、境界地域の研究を重点化し、その研究の国際的な進展をリードしてきました。その意味で、国際情勢の変化によって、本センターとして大幅な方針の転換が必要となったというわけではなく、むしろ、いまこそ今までの研究蓄積を生かして、国際的にリーダーシップを発揮すべき時だとする意識がありました。そこで、中心と周縁の関係を主とする今までの「帝国論」を乗り越え、境界地域から出発し、中東

欧から極東まで、境界地域をつなぐような、新しい北ユーラシアの歴史、新しい20世紀の「夜明け」を考えたいと思い、今回の夏期国際シンポジウムを企画しました。

この提案には、世界の第一線の中堅・若手の研究者が積極的に呼応し、海外から12名（2名はオンライン参加）、国内からは7名が報告者として参加しました。さらに、国内の気鋭の研究者6名にディスカッサントを依頼し、議論の道筋をつくってもらいました。

2日間にわたって、「伝統と近代化」「新しい文脈における民族問題」「グローバル化：社会・経済・インフラ」「抵抗、衝突、暴力」「ロシアの境界地域から世界へ」「新しい政治プロジェクト」など、テーマ別に6パネル19本の報告がなされました。また、前日の17日（水）には参加者の一人のブック・

トークも開かれました。今回は対面のみでの開催となりましたが、2日間の延べ人数は126名（うち外国人46名）に上りました。

会場での議論は、2日間とも熱気を帯び、どのパネルでも議論の時間が足りず、会場の外でも意見の交換が続きました。参加者からは「今まで参加したシンポジウムのなかで最良のものの一つである」「新しいプロジェクトの構想を得た」「知的に刺激的であった」など、たいへんな好評を得ました。当センター・スタッフの見事な対応力もあり、国際的な研究拠点としての存在感を十分に示すことができたシンポジウムとなりました。

（スラブ・ユーラシア研究センター）



2日間のシンポジウムを終えて

スラブ・ユーラシア研究センターの長縄宣博教授が 大同生命地域研究奨励賞を受賞

スラブ・ユーラシア研究センターの長縄宣博教授が2024年度（第39回）大同生命地域研究奨励賞を受賞しました。

本賞は、地域研究の分野で新しい展開を試みるとともに、今後さらに活躍が期待される研究者3名に対して毎年贈られるものです。本センターでは、宇山智彦教授に次いで2人目の快挙となります。長縄教授は、ロシアとイスラム世界の交わる地域に関する帝国論的・社会史的研究で国際的に卓越した貢献をしてきたことが受賞理由となっています。

長縄教授は、ロシア帝国が動揺し解体に向かい、ソ連が成立する19世紀後半から20世紀前半までのユーラシア大陸の地殻変動の中で、ロシアが国内外のムスリムと結んだ関係を解明する研究に取り組んできました。とりわけ、ヴォルガ川とウラル山脈にはさまれた地域に16世紀半ば以来住む少数派のムスリムが、ロシア帝国の統治制度やロ

シア人社会といかに巧みに交渉してきたか、あるいはオスマン帝国との往来が現地のムスリム社会にどのような影響をもたらしてきたかを究明してきました。その研究成果をまとめた単著『イスラームのロシア帝国・宗教・公共圏 1905-1917』（名古屋大学出版会、2017年）は、アジア史研究への顕著な貢献を顕彰する三島海雲学術賞を2019年に受賞し、本研究がロシア史の枠をはるかに超えるインパクトを持っていることを証明しました。

また、長縄教授はスラブ・ユーラシア地域研究の国際的な文脈において、日本人の存在感を高める役割も担っています。論文はロシア・ユーラシア史研究の最高峰である学術雑誌Slavic Review, Kritika, Ab Imperioなどに掲載され、前二者の雑誌のEditorial Boardにその名を連ねていることは、日本人としては言うまでもなく、アジア出身の研究者としても前人未到です。長縄

教授は、近年取り組んでいる初期ソ連時代の中東外交に関する研究によって、プリンストン高等研究所歴史学院に招聘されるなど、国際的にも注目を集めています。

以上のような業績により、長縄教授はすでに日本学術振興会賞及び日本学士院奨励賞（2021年）を受賞しています。現在は、本センターのセンター長の他、「領域を超えた地域研究振興のための拠点形成」関連プロジェクト「国際的な生存戦略研究プラットフォームの構築」の研究代表者を務め、スラブ・ユーラシア研究が積み重ねてきた知見を現代世界の危機の理解に応用し、ロシア・東欧地域の人文社会科学研究に新たな使命を与えるべく努めています。

（スラブ・ユーラシア研究センター）



第39回大同生命地域研究奨励賞贈呈式（左から2人目が長縄教授）

第5回北の森林サイエンスCAFEを開催

5月25日（土）に、北方生物圏フィールド科学センター北管理部（名寄教育研究棟）の主催で、「北の森林（きたのもり）サイエンスCAFE」を開催しました。5回目となるこのイベントには、北管理部のある名寄市と近隣の美深町、音威子府村から23名が参加しました。

今回のサイエンスCAFEでは、3月に行った第4回の開催と同様、北管理部

にある林で鳥類をメインとした動植物の観察会を行いました。前回開催以降に林の間伐（木々の密度調整のための伐採）を行いました。前回に続いてイベントに参加された方も多数いらったため、景色の変わった林の中を皆様で探索することで、前回との違いを見ていただきました。またどんぐり植え体験や、北管理部で作成したスウェーデントーチによる焚火体験をす

ることで、森林をより身近に感じてもらうような取り組みも行い、好評を得たところです。

これからも北管理部では、研究林の魅力や重要性を発信する窓口としての役割を担っていきたいと考えています。

（北方生物圏フィールド科学センター）



間伐した林の観察



どんぐり植え体験



北管理部作のスウェーデントーチによる焚火体験

北極域研究センターと紋別市が連携協定を締結

7月19日（金）、北極域研究センターと紋別市は、学術・教育・文化・地域振興の各分野での協力関係を一層強化することを目的として、連携協定を締結しました。

当日は、オープンイノベーションハブ「エンレイソウ」にて、宮川良一紋別市長と宇都正太郎センター長職務代理らが出席し締結式が執り行われました。

紋別市を含むオホーツク海沿岸は、流水が到来する海域として流水研究が盛んに行われており、毎年2月には流

氷研究者が集う「北方圏国際シンポジウム」を本センターと同市で共催しています。今後は、シンポジウムのみならず、流水に関する研究や、市民や小中学生に向けた本センター教員による講演会などの学術普及活動を通し、より一層の研究活動及び交流活動に取り組んでまいります。

締結式では、宇都センター長職務代理から、「研究インフラが充実している紋別市は我々にとっても魅力的なフィールド。地域振興に少しでも貢献できれば」と今後の展望が語られました。

■連携協定に基づく取り組み

- (1) 北極域及びオホーツク海周辺地域の研究に関すること
- (2) 国際シンポジウムの運営に関すること
- (3) 科学・文化の振興に関すること
- (4) 地域振興に関すること
- (5) 教育・人材育成に関すること

（北極域研究センター）



集合写真（協定書を手にする宇都センター長職務代理（中央左）と宮川市長（中央右））

学内の相談関係者の連携強化のための「学生相談フォーラム」を開催

学生相談総合センターでは、6月18日（火）にオンライン形式で、令和6年度第1回「学生相談フォーラム」を開催しました。このフォーラムは、学内で相談業務を担当している相談員が一堂に会し、学生サポートのための連携強化を図る重要な場となっています。

学生生活においては、メンタルヘルスの問題、対人関係の問題、ハラスメントの問題、就職活動やキャリアの問題、修学上の問題等、さまざまな困難に直面することは少なくありません。本学では、そうした問題に対処するために、学内に多くの相談施設や窓口を設けています。「学生相談フォーラム」は、これらの相談施設がより効果的に連携し、学生に対してよりよいサポートを提供するための取り組みとして、毎年度3回程度開催されています。

今回のフォーラムには、学生相談総

合センターのほか、各部局相談室、キャリアセンター、ハラスメント相談室、ラーニングサポート室、ダイバーシティ・インクルージョン推進本部などから、総勢31人の相談員が参加しました。

フォーラムの場では、各施設の昨年度の学生の利用状況やその特徴について共有され、多くの施設で利用者が増加しており、特に複雑な問題を抱える学生も少なくないことが報告されました。これらの問題に対して、各施設がどのように対応し、支援を行っているかについても個人情報には触れない形で意見交換がなされました。事後アンケートでは、各部署の活動についてもっと踏み込んだ内容が聞きたい、どのような連携・協力ができるのか具体的に知りたいなど、今後の学生相談フォーラムの運営に活かすべき貴重な意見

が出されました。

学生相談総合センターでは、今後も学内の各施設と緊密に連携し、学生が安心して研究や学修に打ち込める環境を整えるために、引き続きサポートを強化していきます。これらの取り組みを通じて、学生がより充実した学生生活を送り、現在の研究や将来の目標に向かって安心して努力できる環境を提供することを目指しています。

（学生相談総合センター）

学生相談総合センターでは、学内の相談施設一覧を掲載している「北大生のための相談先お助けガイド」を作成、学内配布しています。学生相談総合センターのホームページ（<https://www.sacc.hokudai.ac.jp/>）からも取得できますのでご参照ください。



北大生のためのお助けガイド（表面）



北大生のためのお助けガイド（裏面）

パネル企画展示「北方古地図展（第一期）」を開催中

附属図書館では、パネル企画展示「北方古地図展（第一期）」を、8月23日（金）から9月29日（日）まで、本館正面玄関ロビーにて開催しています。

当館は北方地域に関する多くの資料を所蔵しています。なかでも北海道（蝦夷）、カラフト、千島の地図・図類は系統的に収集され、興味深いコレクションの一つとなっています。本企画では、同コレクションより江戸初期～明治初期にかけて作成された特色ある北海道図を選出し、図の変遷をたど

りながら北海道の歴史を概観します。

「元禄国絵図」（元禄13年）などに代表される江戸中期の地図では、蝦夷地やカラフトの形は定まっていなかったものの、一部にはすでに地名の記載が見られます。やや時代を下り、「松前蝦夷地嶋図」（文化13年）は実測により作成された地図で、海岸・河川の名称が詳細に書き込まれています。さらに、松浦武四郎による「東西蝦夷山川地理取調図」（安政6年）は、木版印刷26枚組の切り図として知られる同名の

地図群を一枚に貼り合わせた珍しい一品です。原寸236×353cmを誇る巨大な地図で、本企画では約半分の大きさの複製パネルをご覧ください。

本展示は平成25年に開催した「北方古地図展」の第一期をホームカミングデーに合わせて改めて企画するものです。外部資金等を活用し、展示資料の多くを高精細にて再撮影しています。是非この機会にご覧ください。

（附属図書館）



元禄国絵図



東西蝦夷山川地理取調図

■ 監事退任にあたって

本年8月31日限りで監事を退任される方のお言葉と略歴を紹介します。

監事

いしかわ のぶゆき
石川 信行 氏



このたび、4年の任期を満了し、監事を退任いたします。着任時は新型コロナウイルスが蔓延していたことに加え、本学では総長解任に伴う新総長選考が重なりました。また併せてその時期に過去の研究費不正に伴う文部科学省の機動調査に係るフォローアップ調査への対応があり、大変慌ただしかったことが記憶に鮮明に残っております。

監査論的に考えると監事監査は会計監査と業務監査があり、非常勤の公認会計士として求められるのは会計監査かと思いますが、やはりそれでは監事としての責務を半分しか果たしていないことにもなります。しかし業務監査も、ということになると北海道大学は大変巨大な組織であり、非常勤かつ限られた任期でどこまでできるか、ということは常に悩んでいたところでした。

日本の大学の組織というのは非常に独特で、諸外国の大学や民間の考え方をそのまま導入できない面が多々あるかと思います。それらを言われるがままに受け入れる必要はないと思いますが、時代が変わってきているのも事実です。受け入れられるところは受け入れ、本学が世界に羽ばたく大学になることを祈念しております。監事支援室を中心に多くの方にお世話になりました。4年間ありがとうございました。

略 歴

生 年 月 日 昭和43年3月26日
平成 5年10月 朝日監査法人（現あずさ監査法人）札幌事務所
平成 9年 8月 石川公認会計士事務所代表
令和 2年 9月 北海道大学監事

表敬訪問

海外

年月日	来 訪 者	来 訪 目 的
6.7.12	北京大学（中華人民共和国） Yuzhong Ren 副学長	今後の交流に関する懇談
6.7.29	メルボルン大学（オーストラリア連邦） Barry Judd 理事	今後の交流に関する懇談



Yuzhong Ren 北京大学副学長（中央左）



Barry Judd メルボルン大学理事（右から8人目）

（国際部国際連携課）

■人事

令和6年7月23日付発令

新 職 名（発令事項）	氏 名	旧 職 名（現職名）
【経営協議会委員】 （期間：令和9年3月31日まで）	鈴 木 洋一郎	北海道経済産業局長

令和6年8月1日付発令

新 職 名（発令事項）	氏 名	旧 職 名（現職名）
【総長補佐】 （期間：令和8年3月31日まで）	工 藤 興 亮	大学院医学研究院教授
【部局長・施設長等】 アイソトープ総合センター長 （期間：令和8年7月31日まで）	工 藤 興 亮	大学院医学研究院教授
【教授】 大学院医学研究院教授 水産学部附属練習船おしよろ丸教授	古 元 重 和 亀 井 佳 彦	厚生労働省老健局老人保健課長 水産学部附属練習船おしよろ丸准教授

部局長等（再任）紹介

令和6年8月1日付

アイソトープ総合センター長に

く どう こう すけ
工藤 興亮 教授

工藤興亮教授は、令和5年4月1日からアイソトープ総合センター長を務め、令和6年7月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。
任期は、令和8年7月31日までです。

新任教授紹介

令和6年8月1日付



医学研究院教授に

こもと しげかず
古元 重和 氏

社会医学分野

最終学歴

慶應義塾大学医学部卒業
博士（医学）（慶應義塾大学）

専門分野

医療政策評価学



水産学部教授に

かめい よしひこ
亀井 佳彦 氏

水産学部附属練習船おしよ丸

最終学歴

北海道大学水産学部特設専攻科修了（昭和62年3月）

専門分野

航海学・船舶運用学・海洋資源生態学

訃報

名誉教授 小中 重弘 氏
(享年84歳)



名誉教授 小中重弘 先生は、令和6年6月11日に逝去されました。

小中先生は昭和14年9月に北海道北見市に生まれ、同38年3月に東京大学理学部化学科を卒業、同40年3月に同大学大学院理学研究科修士課程を修了後、同年4月に北海道大学理学部助手に着任されました。昭和44年に同大学で理学博士の学位を取得され（論文題目：

気体電子回折による AsF_3 と AsCl_3 の分子構造の決定）、テキサス大学に同47年から同49年まで滞在され、気体分子による電子散乱に対する偏極効果の理論を研究されました。昭和49年に気体電子回折法による無機化合物の構造及び電子散乱強度に関する研究により日本化学会進歩賞を受賞され、同51年理学部講師、同52年助教授、同61年に教授、平成7年に大学院理学研究科の教授に就任されました。平成15年3月に定年退官、同年4月に北海道大学名誉教授の称号を授与されました。

小中先生は、一貫して構造化学の研究を進められてきました。気相における分子の精密構造決定、有機化合物の構造に対する置換基効果、液晶分子とその関連分子の構造決定、生理活性分子とその異性体の構造決定に従事されました。また、実験装置の設計・製作にも取り組まれ、小角電子回折装置

と大型電子回折装置を完成させました。教授になられてからは、液晶溶媒中の溶質分子のNMRによる構造決定にもご尽力されました。

また、学科及び専攻の講義や演習を担当し、学生の教育に尽くされるとともに、学部生及び大学院生の研究指導にあたり、多くの研究者を養成され、教授在任中に13名の課程博士を世に送り出されました。研究室の恒例行事だった夏山登山では、山中でのキャンプ・自炊や山頂からの景色など、心に残る瞬間を学生と共有されました。大学・学部の管理運営に対しても、平成5年から同6年に評議員を務めるなど、多大な貢献をされました。

小中先生の長年にわたるご功績に感謝し、ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

(理学院・理学研究院・理学部)

編集メモ

- 9月2日（月）から、本学公式クラウドファンディングプロジェクト第7弾が新たに始まります。
詳細は、QRコードからご覧ください！

北海道大学クラウドファンディング
<https://readyfor.jp/pp/hokudai>



裏表紙メモ

今月のキャンパス風景は、野球場Aです。硬式野球部の練習場所として利用されています。
木製バットの乾いた打撃音とともに、白いボールが天高く舞い上がり、皆が青空を見上げます。白球を一心に追いかける硬式野球部の選手たちが、秋季リーグ戦できっと素晴らしい活躍を見せてくれることでしょう。

キャンパス風景 53 野球場A（北17条西15丁目）



北大時報 ⑧ No.845 令和6年8月発行

北海道大学社会共創部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL : (011) 706-2610 / FAX : (011) 706-2092 / E-mail : kouhou@jimuhokudai.ac.jp

<https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html>